



2017. 7. 14

8月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

入園式・始業式が先日のような気がするのですが、もう夏休みが目の前です。

最近では「グランピング」という「超贅沢なキャンプ」が話題になったり、アウトドアグッズがマーケットとして確立するなど、「キャンプ」がコマーシャルベースで用いられることが多くなりました。

日本のYMCAで現在のような教育キャンプが初めて行われてから、もうすぐ100年になります。

YMCAのキャンプではグループワークを用いて社会性を育み、自然体験の中で、自分を取り巻くすべての環境、海や川や空、草や木や花、すべての生き物、家族や隣人と、自分は等しく同じ存在であって、互いに生き生きかされていることに感謝しながら生きる、そういった価値観を感じ取って欲しいと願っています。

余島キャンプ場はYMCAキャンプのためのキャンプ場です。言葉ではなく、キャンプを楽しむ中でそのような考え方や価値観が伝わるようにと創られて60年以上になりますが、運営の主力はずっと大学生を中心としたボランティアリーダーです。キャンプ場では短く「リーダー」と呼ばれます。

昨年の年長組余島キャンプでは2日目の夜、子どもたちはキャビンで就寝した後でしたが、台風の影響で雷鳴が轟き、強い雨風が明け方まで続きました。私は、子どもたちの起床前に、状況を確認しようと自分のキャビンを出て食堂がある所まで下りたのですが、既にリーダーたちは雨風の中、食堂前のタープを張り直し、各キャビンから食堂へ向かう道を点検しと、通常でも朝は忙しいのですが、更に忙しく動き回っていました。

レインパーカーを着たリーダーが2m以上ある松の枝を担いでキャビンの方から下りてきました。時計を見ると5時前です。「ワーク（作業のこと）何時から？」「まだ1時間くらいです」「ごつい枝」「風、結構きつかったの。子どもが通れないと困りますから」汗か雨か、びしょ濡れの顔で笑うと、また別のキャビンのほうへ上っていきます。食堂横には枝の山ができていました。

因みにキャンプ場にキャビンは12棟あって、山の中に点在しています。夜明の雨風の中、重い枝を担いで山道を下りる、悲壮な状況のはずがリーダーは楽しそうです。子どもたちのために、キャンプを今日も楽しんでもらうために。子どもたちはこんな場面は見えていないのですが、こうしたリーダーたちによって運営されるキャンプだからこそ、YMCAの願いは伝わっていくに違いないと思いました。

年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなたがたは神に愛されている子供です」

(エフェソの信徒への手紙 5章 1節)

8月主題 『やってみる』

<聖句> 「しかし、必要なことはただ一つだけである。」

(ルカによる福音書 10章 42節)